

## VI 海竜王寺北方の発掘調査(第95-2次)

駐車場造成にともなう調査で、調査地は海竜王寺現境内の北に接する水田で、金堂の北々東に位置する。検出した遺構は築地1条と溝2条である。

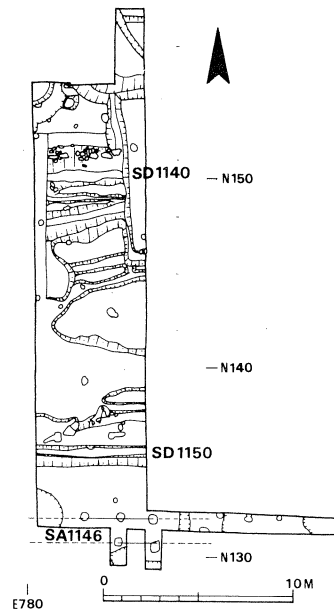
築地(SA1146) 発掘区南端を東西にはしるものである。攪乱のため2間分しか確認できなかったが、基底幅は6尺、柱間寸法は6尺等間である。

溝(SD1150) 築地SA1146の北2.8mの位置を東西にはしる幅約1.6m

の素掘りの溝である。南岸は遺存状況良好であるが、北岸は削平を受けている。溝の堆積土は2層にわかれ、下層を奈良時代、上層を平安時代初期に比定できる。築地SA1146の北雨落溝と考えられる。

溝(SD1140) 溝SD1150の北15m(心々距離)の位置を東西にはしる幅1.9m、深さ1.2mの溝で、大きい自然石を側面に並べて護岸としている。護岸は北壁では良く残っていたが、南岸では発掘区西端に一部残っているにすぎない。底は素掘りのままで化粧はない。瓦類、土器類、貨幣、木簡などが出土し、奈良時代に比定できる。

この築地SA1146、東西溝SD1150はともに、現在までに確認されている平城京条坊区割のどれとも明確な関連性を示さないが、築地と東西溝のいずれかが海竜王寺旧寺域北限の一端を示すものであることは確実であろう。ただ、両者のいずれが寺域北限であるかについては決しがたく、今後の調査をまちたい。



第8図 第95-2次発掘遺構図